

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 2F やすらか)

事業所番号	06		
法人名	社会福祉法人敬寿会		
事業所名	認知症高齢者グループホーム敬寿園		
所在地	山形県山形市大字妙見寺500-1		
自己評価作成日	平成 21 年 7 月 3 日	開設年月日	平成 13 年 4 月 1 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

気候が良い時は、ドライブや買い物、散歩等に出掛けグループホームに閉じこもらない生活を送っている。利用者との関わりを多く持つ事で信頼関係も増し、職員、利用者共に明るく笑顔が絶えず、いつもグループホーム内は歌を唄うなど明るい雰囲気の中で生活を送っている。日常生活を通し、自分に合った役割活動に参加する事により、自信に繋がりがメリハリのある生活を送っている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市檀野前13-2		
訪問調査日	平成21年 9月 3日	評価結果決定日	平成 21年 9月 25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※1ユニット目に掲載

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等がサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホーム独自の地域密着型サービスであるということを考慮した理念があり、玄関に掲示している。また、月一回のミーティング時管理者より、話しをもらい、職員全員が理念に基づいた、内部研修を行う事で管理者、職員が同じ方向性で取り組んでいけるようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の文化祭や盆踊りに参加したり、地域の子供たちが子供神輿を披露して下さるなど地元の人々と交流をしている。また、買い物や公共施設を使用しており、交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターが有り、そこが窓口になって取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	これまで自己評価、外部評価、行事等の参加。実際にグループホームでの利用者との関わりを持って頂き触れ合う事でグループホームを理解して頂けたと思う。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護を受けている利用者について、面会や問い合わせがあった。また、参加しては頂けなかったが、運動会や芋煮会の案内状を出した。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	身体拘束は行っていない。日常生活に支障をきたす症状がある利用者に対しては、医師、家族と相談の上、症状を緩和する精神薬を処方して頂いている。玄関にセンサーを取り付けたり、夜間は玄関の施錠を行い安全に生活が送れるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての研修に参加し報告する事で虐待防止に努めている。また、事業所内で虐待が行われないように、職員間で話し合い注意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の中で成年後見制度を必要とする利用者はいないが、成年後見制度を学ぶ研修に参加した。また、事業所内にいつでも閲覧出来るように置いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族の契約や解約の際、十分に話し合いを行い、その際、不安や疑問点を傾聴した上で理解し納得をして頂けるまで説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	山形県福祉サービス運営適正化委員会が設けられており、その旨ポスターとしてホーム内の見やすい場所に掲示している。面会時や家族会、運営推進会議等でも家族の意見(不満)や苦情を聞くようにしている。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	よろず箱の設置や月1回の全体朝礼で職員の意見や要望を聞く機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課があり、働きにあったベースアップがあり、向上心を持って働けるような体制がある。希望する勤務地や事業所への異動や資格取得が出来るように職員に対し常に働きかけている。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修や勤務年数、経験年数に応じて外部の研修に、ほとんどの職員が参加している。月初めの全体朝礼で研修報告を行ったり、全ユニットで研修報告書を供覧している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市、県単位のグループホーム職員の交換研修に参加。市、県内外の研修にほとんどの職員が参加し交流を持つ事でサービス向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に他事業所に会いに出掛け、本人と話しをしたり、職員に話を聞き、少しでも不安なくスムーズに入居が出来るように対応をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に家族と話し合い家族等が困っている事や不安な事、求めている事など聞いている。ホーム見学時に十分に話しを聞く場を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の話しを聞いて、申し込み時に空きが無い時は地域密着型の他の事業所を紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員、利用者と言う立場だけでなく、家族の一員としての目線で、レクリエーション・家事といった役割活動を一緒に行い利用者の特性や心情を理解するようにしている。日常生活の中で本人が持っている知恵や知識を引き出せるような会話や関わりを多く持ち信頼関係を今以上に築けるように努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事に参加して頂き、楽しみを共有している。面会時、必要な際、職員も間に入りお互いの関係がこじれないように努めている。また、家族の意見や思いを聞くようにし信頼関係を築けるように努めている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人との関係が途切れないように面会に来た際はゆっくり会話が出来る場を設けている。また、ドライブの際は、自宅まで出掛けたり、通院先でも馴染みの人と会えるように場を設け、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、トラブルにならないように職員が間に入り、お互いに支え合えるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した家族から葉書を頂いた。担当ケアマネージャーに状況を聞き、面会の機会を計画したが、実現出来なかった。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で利用者の思いや希望を聞き個別援助計画を作成している。思いや希望を伝える事が困難な利用者に対して、家族の意向も取り入れながら本人の立場に立った支援を行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	人生のあゆみやセンター方式を通して家族等から情報を得て暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、バイタルチェックを行い心身の状態に変化が無いか把握している。また、一緒に生活をする中で多くの関わりを持ち一人ひとりの持っている力を把握出来るように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、全職員、管理者を交えたミーティングを行い、本人家族の意見や希望を反映した介護計画を作成している。三ヶ月事、見直しを行う事を基本とし利用者の状況に応じて、介護計画の見直しや家族に現状を伝え本人に見合った介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子を業務日誌、ケアプランチェック表からケース記録に記入している。また、気づきや変化等あった際は、申し送りノートやヒヤリハットノートにその都度記入し情報を共有して介護計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員の訪問や研修生、中学生の職場体験の受け入れ、定期的に消防署を交えた防災訓練、選挙投票時の公民館、自宅近くの美容院など公共施設を利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前から、かかりつけ医がある場合は入居後も継続して通院出来るようにしている。無い場合は園の提携病院やかかりつけ医を紹介し、職員付き添いで通院して頂いている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	敷地内に日常的に駆けつけられる5人の看護師がおり、容態急変時には、迅速に対応が出来また、相談が出来る体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際、本人に必要な情報を医療機関に提供している。入院先の看護師や家族に話を聞き、施設で可能な限り対応出来る環境が整った際、早期退院が出来るようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り介護の指針のもとに、本人、家族と終末期のあり方を話し合っている。また、かかりつけ医と連携し利用者のケアを職員間で話し合い、家族、職員で方針を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時には、併設の看護師に診てもらったり、往診やすぐにかかりつけ医に通院している。赤十字の方を招き、職員全員が心肺蘇生法やAEDの講習を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防署を招いた防災訓練を行っている。また、地域の消防団に協力をお願いをし了解を得ている。災害時に飲料水や食品を確保している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を損ねない言葉掛けを心掛けているものの慣れが生じてしまい言葉掛けが乱れてしまうことがある。、職員間で注意し合ったり、ミーティングで話し合う事でプライバシーや人格を損ねない声掛けや対応になるように心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の意見を押し付けずにお好み献立や日常のドライブ・買い物、洋服選び等日常的に場面作りを行い自己決定が出来るように働きかけている。自己決定が出来ない方については、その人の立場に立った支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	最低限の規律ある生活の中で職員側の決まりや都合を優先しないように心掛けているが職員の都合を優先してしまうこともある。お茶時や食事時等、活動時何がしたいか伺ったり個々のペースで活動に参加して頂けるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で出来る方については自分で化粧や洋服選びを行って頂き、出来ない方については二者択一をしたり同じ服装にならないように職員が選んでいる。また、自分で髭を剃らない方については職員が手伝っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事中はテレビを消しゆったりとした中で食事を行い、また食後は会話をする等食事は楽しいものであると言う雰囲気作りをしている。利用者と職員と一緒に食事準備や片付けを行っている。月に1回、お好み献立や自由献立を設け利用者の好みを伺っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは専属の管理栄養士が献立を考え一日1600calとしている。お茶時や食事等で多めに水分を取って頂けるように支援しているが水分を取りたがらない利用者もいる為、水分補給の大切さを話し理解して頂く事で水分補給の確保につなげている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きは毎食後を基本とし声掛け確認を行っている。また、ボランティアの歯科検診があり、希望者には口腔ケアを行っている。介助が必要な方や磨き残しがある方については、歯科衛生士の指導のもと、職員が行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を付け個々の排泄パターンを把握し出来るだけ失禁が無いようにトイレ内で排泄が出来るように支援している。また、トイレの際はプライバシーに配慮した声掛けや誘導を心掛けている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お茶時や食事等で多めに水分と取って頂けるように支援しているが水分を取りたがらない利用者もいる。水分補給の大切さを話したり腹部マッサージや体を動かす事で便秘予防に繋げている。それでも便秘の方には、主治医の指示のもと下剤が習慣化しない程度に下剤を処方して頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者全員が毎日、夕食後に入浴して頂けるようにしているが体調や利用者の気分等で入浴をしなかった事もある。温度や入る長さは個人の意思を尊重し入浴時は歌を唄ったり、会話を楽しんでいる。また、入浴時間を変更する際は利用者の了解を得て入浴をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中活動的に過ごしたり、夜間に入浴を行う事で、夜間の良眠につなげている。利用者の個々のペースで休息を十分に取って頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をケース記録にファイルする事で職員全員が内容を把握出来るようにしている。常時服薬は職員側で管理しており、一人ひとりに合った渡し方や確認をしている。また、服薬チェック表を作成したり薬をホチキスで留めたり誤薬をしないように職員2名で確認をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人、家族、センター方式で聞いた生活暦をもとに能力にあった役割活動、散歩、ドライブ等の楽しみ事を行う事でメリハリのある生活が送れるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日はドライブや買い物、外での食事など、ホーム内の生活にならないように支援している。また、家族の協力により自宅に出掛けたり、お墓参りに出掛けている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は基本的に紛失やトラブルを避ける為、職員側で管理しているが、小銭程度本人が所有している方もいる。また、支払い能力が出来る方については、財布の中から自ら支払いをして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の利用は、必要に応じて職員が間に入ることもあるが、自由であり、掛けたいと言うよう要求があればその都度対応している。家族や友人宛に年賀状を書いて頂けるように話しをし、実際に書いて出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレにさりげなく目印を付け浴室には暖簾を設置している。食堂と居間がオープンスペースになっており食事作りの音や匂いが日常的に漂っている。敷地内の草花や写真を居間、玄関に飾っている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂、居間、和室で思い思いの過ごし方をしている。また、仲の良い利用者同士入浴が出来るように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人差はあるが入居時に本人、家族と相談し今まで使用していた家具類や馴染みの本を持ってきて頂いたり、新聞や牛乳等を購入して頂いたり、亡くなった家族の写真や位牌、以前より信仰している神様のお札等を持ってきて頂くなど入居前と同じような生活が送れるように支援している。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内や玄関に手擦りが設置され不便なく生活している。また、トイレに目印を付けたりトイレ内のタオルを自分の物と錯覚してしまう利用者がいる為明記している。			